

解説

1 漢字の読み書き

2 文の成分

(2) 「売り切れていた」に対応する主語は「本は」ですが、ここでは「主部を連文節で」と指定されているので、「弟の探している本は」を書き抜きます。「大きな本屋に行ったのに」は接続部です。

(3) 「聞き入った」にかかる修飾部は「バイオリンの音色に」です。「劇場の聴衆は」は主部です。

3 小説(草野たき「反撃」より)

(1) 本文は、「演劇部の『役者募集』の広告を見た場面」と「演劇部の中村さんを訪ねた場面」、「演劇部の稽古場の場面」に分けられます。「そう思いついた私は、くたずねてみることにした」の一文は、これから中村さんのいる教室へ移動しようとする様子を表しています。「私は早速その日の放課後に、く」の一文は、直前の段落から時間が経過し、「私」が演劇部の稽古場へ向かおうとしていることを表しています。

(2) アは「椅子や机を廊下に移動させて」、ウは「今回のコンクールで入賞することを目指している」がそれぞれ適切ではありません。

(4) ② 傍線③のあとの「これまでの人生で、こんな風に必要とされ、くうれしさのあまりにやけてしまう」の部分と、エの内容が合っています。アは「どんな役を求めているのかわからず不安く期待にこたえなければならぬ」、イは「中村さんに感謝するくすべてのことが新鮮」、ウは「教室の前で抱きしめられたことに恥ずかしさを感じる」が、それぞれ本文中からは読み取れません。

(5) 傍線④の直前の「スマッシュを打つときにどうしてもでてしまう『うりゃあー』という声」は、「バドミントン部の部員のあいだでは笑いをささうもの」とあるので、これを字数制限に注意してまとめます。

(6) 傍線④のあとの「バドミントン部にいたことも、大声をだして笑われたことも、これ(＝演劇部では『私』の大声が役に立つこと)でむくわれる」、最後の二文の「私たちはこぶしをあげて、くドキドキと胸が高鳴った」と、エの内容が合っています。アは「どこかの部活にくままるのではないかと心配」、イは「ずっと待ちこがれていた本当の親友が得られる」、ウは「その恩(＝演劇部が劇のポイントとなる役を『私』に用意してくれたこと)に報いようと意気込んでいる」が、それぞれ本文中からは読み取れません。

(7) アの「『私』の頑強な精神力」、ウの「『私』の内面が揺れ動く様子」、エの「期待に胸をふくらませていく様子」という内容と、それぞれの選択肢で挙げられている本文中の表現との関連性は読み取れません。

4 説明的文章(畑村洋太郎「みる わかる 伝える」より)

(1) 空欄①は、「文章と図や絵を組み合わせる伝達方法」が私たちの身近で使われている具体例として、「料理を教えるとき」が挙げられているので、「たとえば」が入ります。空欄②は、直後で「これではく誰かに伝えることも生かすこともできない」と前の内容を否定しているので、「しかし」が入ります。

(2) 言葉で情報を伝えることの利点と欠点は、「ただし、これは図や絵による伝達方法に比べて」から始まる段落の「言葉による情報伝達には具体性において漏れが多い」という欠点があるく文章が持つ一般性は頼りになる」の部分にまとめられています。

(4) ① 傍線②を含む段落の「動作・運用が可能である状態で保存するのが理想であるく事故の残骸などをそのまま保存することもこれに含めている」の部分と、イ・エの内容が合っています。

③ 事故を知っている人が「事故の残骸」を見ることで、それがきっかけとなって「当時のことや安全に対する思いが蘇り」、事故の再発防止に役立つと筆者は述べています。

(5) 最後の二つの段落と、エの内容が合っています。アは「図や絵を使って知識を伝達する方法は、く言葉で説明するよりも優れている」、イは「伝えたい内容のすべてを表現する必要がある」、ウは「(事故の)関係者の心情に配慮し、事故の状況がわかる最低限の情報だけを収集すべき」が、それぞれ本文中からは読み取れません。